

ロシア現代劇連続上演シリーズ 第3作

不思議なバーバ

ЧУДНАЯ БАБА

●作
ニーナ・サドウール
Нина Садур

●翻訳・演出
丸知 亜矢



●キャスト
斎藤 深雪
水野 ゆふ
堀越 健次
大庭 藍
野村 須磨子
半田 浩平
(配役順)

●スタッフ
美術=内山 勉
照明=竹井 崇
音響=井出 比呂之
作曲=アンドレイ・ゼレンスキー
舞台監督=市川 兵衛
制作=栗原 暢隆
監修=永田 靖
プロデューサー=名取 敏行
製作=名取事務所

イラスト:ドミートリー・クリモフ(Д.Крымов)

2011年2月9日(水)~2月13日(日) 劇場:東京 両国 シアターX

入場料(日時指定・全席自由):前売り=4,000円 当日=4,500円 学生=2,000円(名取事務所のみ取り扱い)
お問い合わせ:名取事務所Tel 03-3428-8355 後援:ロシア国立マールイ劇場 主催:名取事務所

不思議なバーバ

ЧУДНАЯ БАБА

ロシア現代劇
連続上演シリーズ
第3作

主人公のリジヤ・ペトロブナはジャガイモ畑で奇妙なバーバに出会う。バーバは、自分は善悪の中心だと話し、自分を捕まえるよう促す。自分を捕まえれば世界は救われるが、捕まえなければ世界は破滅するというのである。リジヤは結局バーバを捕まえない。

リジヤ1人だけが生き残ったとバーバは話す。しかし以前の世界とそっくりの外見は残っているがすべて模型で、人間もそうだとする。

彼女は勤務先の設計事務所に行き、本物の人間は誰もいないと思っている。そのことで事件が起き、職場の同僚は彼女は頭がおかしくなったと思い救急車を呼ぶ。

ニーナ・サドゥール Нина Садур

ロシア・ノヴォシビルスク市で生まれる。1983年、ゴーリキー記念文学大学(V. ローソフ、I. ヴィシニエフスキーのゼミナール)を卒業。

彼女は、ロシア現代戯曲の代表的な作家であり、「ロシア不条理劇」の女王と呼ばれ、ロシアで一番謎めいた作家ともいわれている。主な戯曲に「不思議な女(百姓女)」(1981年)、「ツバメの摘発」(1981年)、「部署の仲間」(1982年)、「地主の令嬢」(1985年)、「月の狼」、「チチコフの兄弟」、「ペチョーリンの記憶」などがある。これらの作品は、ロシアの有名な劇場で上演された他、イタリア、カナダ、スウェーデンなど海外でも上演されている。戯曲の他、小説、多数の短編小説も発表している。1997年、雑誌「旗(ズナーミヤ)」にて、賞を受賞。日本での作品上演は今回が初。



斎藤深雪
(劇団俳優座)



水野ゆふ
(Pカンパニー)



堀越健次
(劇団俳優小)



大庭 藍
(劇団俳優座)



野村須磨子
(ぷろだくしょんバオバブ)



半田浩平
(フリー) ◀(配役順)

入場料:日時指定・全席自由

前売り=4,000円 当日=4,500円 学生=2,000円(名取事務所のみにて取り扱い)

前売り・お問い合わせ

カンフェティチケットセンター0120-240-540(平日10時~18時)

カンフェティWEB予約 <http://confetti-web.com/>

名取事務所Tel&Fax 03-3428-8355

〒154-0015 世田谷区桜新町2-21-7 白井ビル 301

<http://www.nato.jp/>(お客様窓口よりチケットのお申し込みが出来ます)

お電話の際はお名前ご連絡先を必ずお知らせください。折り返しこちらからご連絡させていただきます。

[チケットのお申し込みは、出来ましたら、お名前、ご住所、電話番号と、ご希望日時・枚数を明記の上、Faxにてお願いいたします。]

チケット代金振込先=(有)名取事務所

郵便振替 口座番号 00120-4-182879

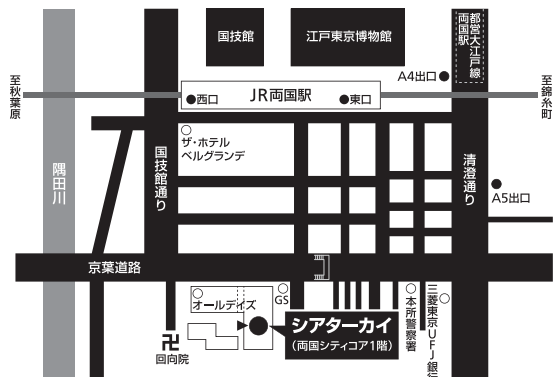
銀行振込口座 三菱東京UFJ銀行 押上駅前支店 (当)197990

日時指定・全席自由

開場は開演の30分前です。

2月	9日(水)	10日(木)	11日(金)	12日(土)	13日(日)
14:00	—	●	●	●	●
19:00	●	●	—	—	—

※未就学児童の入場はお断りしております。11日公演終了後、ニーナ・サドゥール アフタートーク予定。



〒130-0026 東京都墨田区両国2-10-14

Tel.03-5624-1181

[JR 総武線両国駅西口から左へ徒歩約3分]

[地下鉄都営大江戸線両国駅 A5 出口から徒歩約8分]

協力=(有)東京舞台企画・NPO舞台21・(有)juin 2004・
劇団俳優座・ぷろだくしょんバオバブ・Pカンパニー・
(株)オフィスK2・(有)Luxe・(株)ワイズ

ロシア現代劇上演シリーズ

ロシア現代劇上演シリーズと銘打ち、ソ連時代からペレストロイカを経て活性化した現代ロシア演劇の10人の作品を上演する。ペレストロイカ以後ロシア演劇は様々な問題を孕みながらも多様化している。今シリーズは主としてブレジネフ時代の70年代以降に焦点を絞りたい。ペレストロイカ以後のロシア演劇を深い水脈で準備したのは70年代ソビエト演劇の力でもある。ソビエト時代の現実と向き合うことで作品世界が陰影の深いものになる一方、グローバル化の中で現代ロシア演劇も変貌しつつある。このシリーズでは、そんな多様化しているロシア演劇の全貌をまず10人に絞って展開する。

予定の10人の作家

- アレクセイ・アルブゾフ(1908年~1986年)第1回
- アレクサンドル・ヴァンピーロフ(1937年~1972年)第2回
- ワシーリイ・シュクシン(1929年~1974年)
- アレクサンドル・ガーリン(1947年~)
- リュドミーラ・ペトルシェフスカヤ(1938年~)
- ナジェジダ・プトゥーシェキナ(1949年~)
- アナトーリイ・キム(1939年~)
- アレクレー・カザンツェフ(1945年~2007年)
- ニーナ・サドゥール(1950年~)
- ニコライ・コリャーダ(1957年~)

※名取事務所では今回の公演を手伝ってくださる方を募集しております。詳細は名取事務所まで。